

令和7年度 基本施策評価シート

基本施策	B3	平和の文化を醸成します	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	多くの人々が		当事者として、平和を考え行動している。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			73ページ
基本施策主管課名	平和推進課	関係課名	被爆継承課

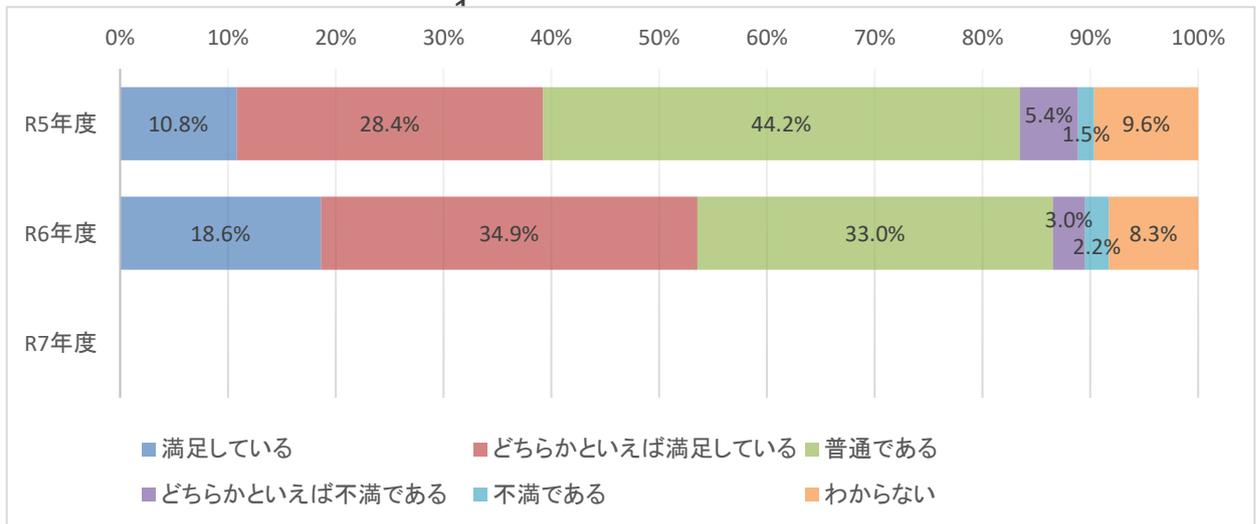
基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「平和の文化事業認定件数」は、2件(令和6年度実績)で、2025年度(令和7年度)の目標値(累計25件)から換算した年間の増加目標値(5件)を下回っているものの、「平和の文化」を根付かせる取組みは徐々に進んでいる。 ●市民満足度については、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合が53.5%で、「不満である」及び「どちらかといえば不満である」と回答した人の割合5.2%を大きく上回る調査結果であった。 <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
B3-1	<ul style="list-style-type: none"> ●長崎平和ハーフマラソンにおける平和発信事業や、核兵器や人道支援をテーマとした映画上映などにより平和について考える機会を創出する。また、平和の文化キャンペーン事業の実施により、庁内各課をはじめ民間団体・企業等、様々な組織と連携しながら、「平和の文化」のイメージを可視化し、広く市民に根付かせるための環境づくりを進めていく。
B3-2	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年ピースボランティアについて、引き続き、SNSや市の広報媒体などを活用した活動内容の周知により、登録者の増加に努める。

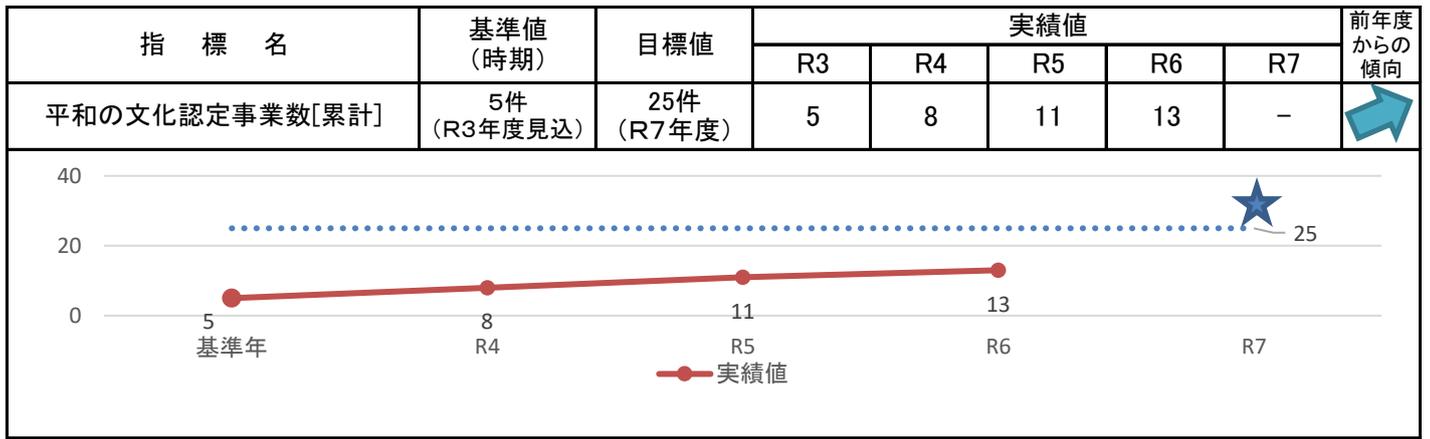
二次評価(施策評価会議による評価)

【B3-1】	<ul style="list-style-type: none"> ●「問題点とその要因」には「機会は創出したものの、具体的な行動に結びつけられていない」としているが、「今後の取組方針」では「機会を創出する」となっているため、どのように具体的に結びつけようとしているか記載すること。
【B3-1】	<ul style="list-style-type: none"> ●「今後の取組方針」は短期的な事業やイベントを行うことが目的のような記載となっているため、「めざす姿」にあるように、多様な主体が取組みを選択できるような記載となるよう検討すること。
【B3-2】	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年ピースボランティアの取組みを中心に記載されているが、「めざす姿」の達成に向け取り組んでいる他の取組みについても記載を検討すること。

基本施策に対する市民満足度調査結果



成果指標



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・平和の文化認定事業による平和活動の顕在化(3件) ・平和の新しい伝え方応援事業費補助金交付による新たな伝え方の増(4件) ・青少年ピースボランティアの育成による平和活動を行う青少年の増(活動に参加した延べ人数 664人) ・沖縄派遣研修(少年平和と友情の翼)実施による若い世代の平和活動体験者の増(参加中学生数 29人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和の文化キャンペーン事業による平和にふれる機会の創出(32件) ・平和の文化認定事業による平和活動の顕在化(3件) ・平和の新しい伝え方応援事業費補助金交付による新たな伝え方の増(5件) ・青少年ピースボランティアの育成による平和活動を行う青少年の増(活動に参加した延べ人数 695人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和の文化キャンペーン事業による平和にふれる機会の創出(25件) ・平和の文化認定事業による平和活動の顕在化(3件) ・平和の新しい伝え方応援事業費補助金交付による新たな伝え方の増(5件) ・青少年ピースボランティアの育成による平和活動を行う青少年の増(活動に参加した延べ人数 1,029人) 	

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	B3-1	スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動する機会を増やします
2025年度にめざす姿	対象	意 図
	多くの人々が	スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動している。
個別施策主管課名	平和推進課	

成果

① 機会の創出

●市民、行政、企業の連携のもと、長崎スタジアムシティで開催した「地球市民フェス」に、延べ約7,000人が参加し、音楽やスポーツなどを入口に、核兵器や平和について考える機会を創出した。

●9・10・11月の平和の文化キャンペーン期間中に実施する、芸術やスポーツなど様々な分野を入口とした平和に関するイベントとして、25の関連事業(※1)を集約し、周知したことにより、「自分に合った平和の取り組みを見つけるきっかけづくり」につながった。

(※1)主な関連事業

- 「忘れないプロジェクト～8月9日11時2分にシャッターを切ろう！～」…長崎に原爆が投下された日のことを風化させず、当たり前の日常の尊さを感じ、平和の輪を広げるための取り組み
- 「平和と祈りのクリスマスコンサート&イルミネーション点灯式 in 天主公園」…平和をテーマとするクリスマスコンサートのほかイルミネーション点灯式などを開催
- 「お手軽ウォーキング 被爆地長崎平和の祈りコース」…ヘルシーウォーキングを活用した「お手軽ウォーキング」として、被爆遺構を巡る平和祈禱コースを歩く

●戦争体験のない世代に被爆体験や核兵器の問題を伝えていくために、平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付対象として5事業(※2)を選定し、その取り組みを支援したことで、新たな発想で時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする機会の創出につながった。

(※2)交付対象5事業

- 原爆写真展ユースボランティア…若い人がガイドボランティアを体験し、その体験を生かした企画展を実施する。
- 「チンドン屋さん」を通して伝え広める長崎原爆と平和のイベントの開催…「チンドン屋さん」を通して、戦争と被爆の実相と平和の尊さを伝える紙芝居を上演する。
- 長崎・市民平和熟議 一心を開いた対話の場の創設…平和をめぐる対話において「熟議」という言葉が注目されつつあるなかで、長崎の大学生を中心に熟議を通して平和を考える場を創出する。
- PEACE FES ISAHAYA2024…平和賛成をキーワードに、被爆体験講話と平和をテーマにした音楽フェスを組み合わせ開催する。
- 「平和活動をビジネスに」未来へつなげるドキュメンタリー映像制作事業…平和活動をビジネス化することに尽力する若者を追ったドキュメンタリー作品を制作する。

問題点とその要因

① 機会の創出

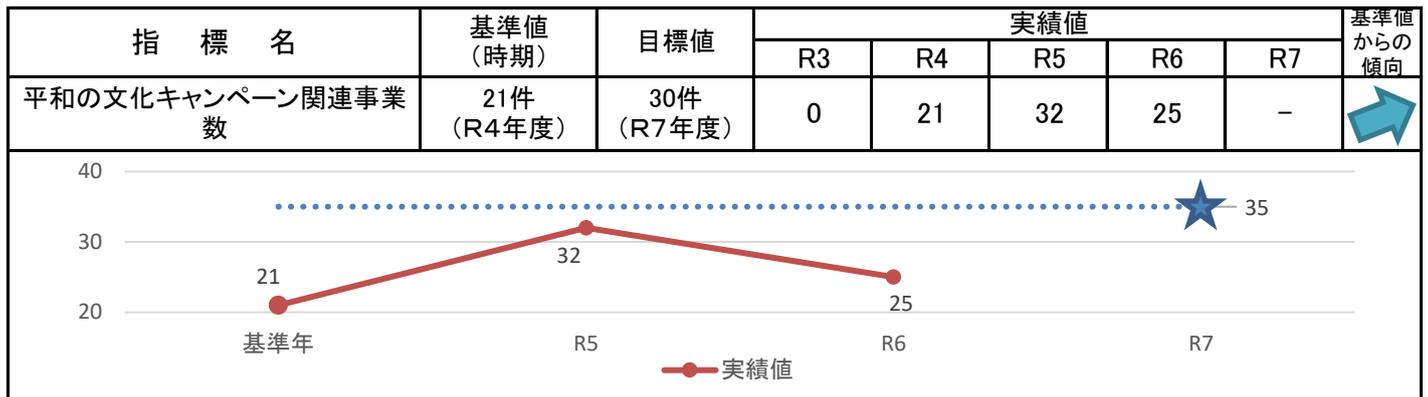
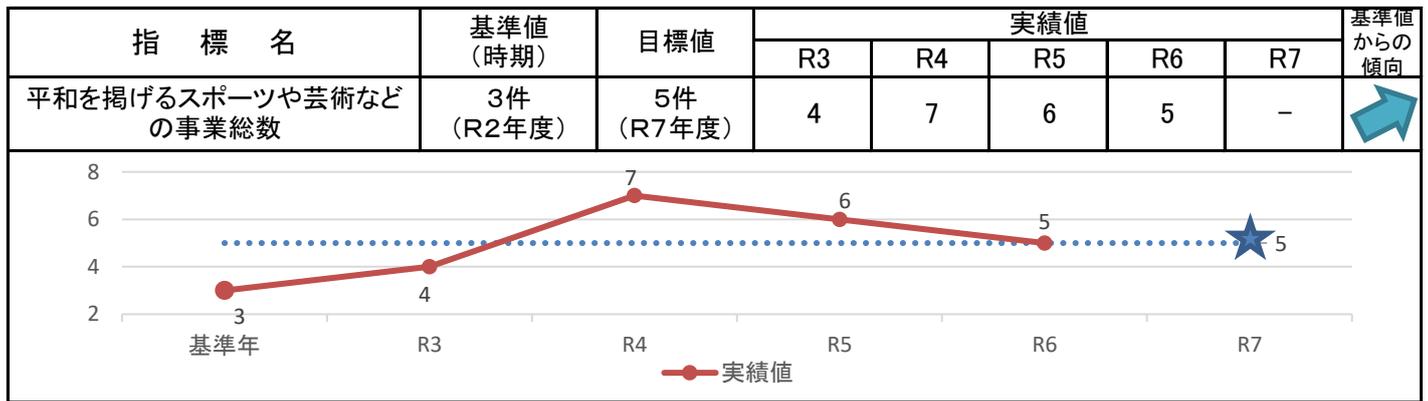
●「地球市民フェス」の開催などにより、「平和の文化」の取り組みを可視化し、その意味や取り組みなどへの理解を深める機会を創出したものの、自分に合った取り組みを見つけてもらうほど浸透しておらず、平和のための具体的な行動に結びつけられていない。

今後の取組方針

① 機会の創出

新規	●平和の文化キャンペーン事業の実施により、庁内各課をはじめ民間団体・企業等、様々な組織と連携しながら、「平和の文化」のイメージを可視化し、広く市民に根付かせるための環境づくりを進めていく。その一環として、核兵器や人道支援をテーマとした映画上映や長崎平和ハーフマラソンにおける平和発信事業を行い、映画やスポーツをはじめ、身近な分野を入口に平和について考える機会を創出し、自分にあった平和の取り組みを見つけるきっかけづくりにつなげていく。
継続	●平和の新しい伝え方応援事業により、時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする個人や団体を応援する取り組みを進める。

成果指標



※令和4年度から平和の文化キャンペーン期間を設定したことにより、「平和の文化」の醸成に、より一層つながりやすいキャンペーン関連事業数を代替指標とした。

施策を推進する主な事業

事業名 担当課	第7回核兵器廃絶-地球市民集会ナガサキ開催費負担金	平和推進課
成果指標	地球市民フェス参加者数	<p>【地球市民フェス】</p>
目標値	4,500人	
実績値	7,000人	
達成率	155.5%	
成果指標・ 目標値の説明	<p>多くの人に参加していただくことで核兵器や平和について考えるきっかけづくりにつながることから、地球市民フェス参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は第1回～6回の平均参加者数である4,500人とした。</p>	
事業目的	平成12年度から数年間隔でこれまで6回開催してきた「核兵器廃絶-地球市民集会ナガサキ」を、核兵器や平和について考えるという軸はそのままに、音楽、スポーツなどを入り口として関心の幅を広げて開催するもの。	
事業概要	平和活動の裾野を広げるための取組みを推進する。	
取組実績	・地球市民フェスの開催	
	決算(見込)額	8,000,000 円

2	事業名 担当課	「平和の文化」醸成事業費		平和推進課
	成果指標	平和の文化キャンペーン関連事業数		 <p>【明治安田生命リーグウォーキングin長崎】</p>
	目標値	27件		
	実績値	25件		
	達成率	92.6%		
	成果指標・ 目標値の説明	<p>多くの事業を平和の文化キャンペーン関連事業に位置付けることで、「自分に合った平和の取組みを見つけるきっかけづくり」につながることから、平和の文化キャンペーン関連事業数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、事業を開始した令和4年度から毎年度3件ずつ増やし、令和6年度の目標値を27件とした。</p>		
	事業目的	スポーツや芸術など様々な分野を入口に、多くの人々が身近なところから平和について考え行動し、日常の中に平和の文化を根付かせる。		
	事業概要	平和活動の裾野を広げるための取組みを推進する。		
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 平和の文化キャンペーン関連事業 25件 平和の文化認定事業 2件 			
	決算(見込)額		292,655	円

3	事業名 担当課	平和の新しい伝え方応援事業費		平和推進課
	成果指標	平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付件数		 <p>【原爆写真展ユースボランティア】</p>
	目標値	5件		
	総事業進捗率	5件		
	達成率	100.0%		
	成果指標・ 目標値の説明	<p>対象事業数が増えることで、戦争体験のない世代に被爆体験や核兵器の問題を伝えていくための機会を創出することにつながるため、補助金の交付件数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、毎年5件の交付件数とする。</p>		
	事業目的	戦争体験のない人に被爆の実相や核兵器の問題を伝えていくための取組みを推進することで、被爆の継承や平和発信を効果的に行う。		
	事業概要	新たな発想で多くの人々に届く、時代に応じた平和の新しい伝え方の取組みに補助金を交付する。		
取組実績	平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付 5件			
	決算(見込)額		1,051,272	円

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	B3-2	若い世代を中心に平和の輪を広げます	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	若い世代が		平和の大切さを理解し、伝え、広げるための活動をしている。
個別施策主管課名	被爆継承課		

成果

① 人材の育成と活動機会の拡充

●青少年ピースボランティアについて、長崎市内の学校などでの出前講座(4件)、広島市・北九州市の平和活動に取り組むボランティアとの交流会(1回)などを実施したことで、自ら被爆の実相や戦争について学び、様々な視点から平和について考え行動する人材の育成が図られた。
また、SNSや市の広報誌などで広く活動内容を周知したことで、登録者数が37人増加し167人となった。

問題点とその要因

① 人材の育成と活動機会の拡充

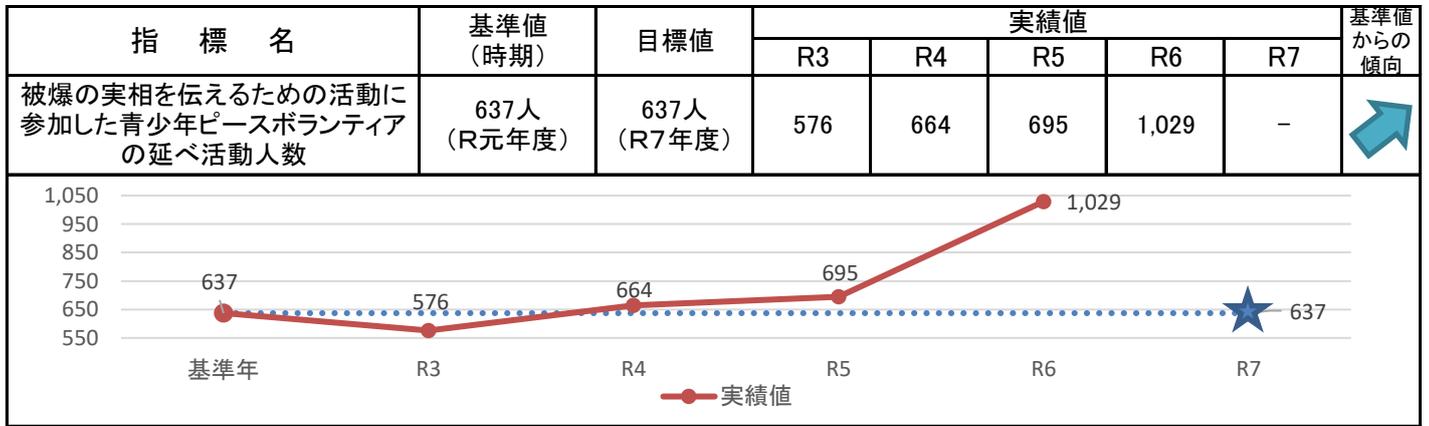
特に記載すべき問題点なし。

今後の取組方針

① 人材の育成と活動機会の拡充

継続 ●青少年ピースボランティアについて、引き続き、SNSや市の広報媒体などを活用した活動内容の周知により、登録者の増加に努める。

成果指標



施策を推進する主な事業

事業名 担当課	被爆体験次世代継承推進費(青少年ピースボランティアの育成)		被爆継承課	
成果指標	被爆の実相を伝えるための活動に参加した青少年ピースボランティアの延べ活動人数		 <p data-bbox="1121 577 1453 645">【ピースボランティアによる ピースフォーラムの運営】</p>	
目標値	637人			
実績値	1,029人			
達成率	161.5%			
成果指標・ 目標値の説明	ピースボランティアの活動量が保たれることで、被爆の実相や平和の尊さについて理解し活動する若い世代の取組みが継続していくと考えられるため、平和活動に参加した青少年ピースボランティアの延べ活動人数を成果指標とした。五次総合計画策定時の直近のピーク値(令和元年度)の活動人数実績(637人)を維持させていくことを目標値とした。			
事業目的	青少年の平和意識の高揚と被爆体験の継承を図るため、被爆の実相や戦争について学び、様々な視点から平和について考え行動する機会を提供する。			
事業概要	中学生を除く15歳から30歳未満の青少年を対象に、青少年ピースフォーラムの企画、運営やボランティア活動のほか、さまざまな視点からの被爆の実相や、それらの発信の仕方を学び、若者目線での情報発信などを通して次代を担う青少年の育成を行う。			
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平和学習会の実施 53回(参加者数:延べ1,029人) ・県外派遣研修 2回(長崎県・福岡県・鹿児島県・沖縄県) ・出前講座及び被爆遺構ガイド等の活動 5件 ほか ※下記決算額のうち (青少年ピースボランティアの育成)に係る事業費:7,159,835円/35,030,618円			
	決算(見込)額	35,030,618		円

1